

# 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	東住吉区
学 校 名	東田辺小学校
学校長名	西浦 博久

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

### (2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・東田辺小学校では、第6学年 42名

## 令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

・国語科は全体として大阪府平均正答率に並んでいる。特に「言葉の特徴や使い方に関する事項」と「情報の扱い方に関する事項」では全国平均も大きく上回っている。一方で「話すこと・聞くこと」と「書くこと」においては、差を開けられる結果となった。

・算数科では、全国と大阪府の平均に5p下回る結果となり、特に「図形」と「変化と関係」の領域においては大きく差が開いている。

・理科では、「生命」と「地球」領域では、大阪府平均を上回っているが、「エネルギー」領域においては大きな差がある。

・児童質問紙からは、生活習慣の乱れが見られ、学習時間が短いことや、自尊感情の低さなどの課題がみられる。一方ICT機器の活用においては、全国平均を上回る結果となっている。

## 分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕得点分布を見ると、大阪府や全国と同様に高得点層に集中が見られるが、中間層にやや窪みが見られ、低正答率の児童も一定数いる特徴的な分布となっている。短答式の回答では正答できているが、記述式の回答は苦手な傾向がある。

〔算数〕国語科と違い得点分布に特徴はなく、高得点層と低位層共にばらつきがある。「変化と関係」においては、10%の扱いについて真に理解している児童が少なく、正しい選択ができなかった。また、分数の加法について記述式で答える問題においては、その理解と記述式への苦手意識も相まって著しく正答率が低い結果となった。

〔理科〕高得点層が他教科と比較しても少なく、中間層と低位層とに二分されている。また、無回答率も高い問題があり、理解がともなっていないと、全く回答することができない児童が多いことも伺えた。乾電池の問題で、電磁石の強さを強くする回路のつなぎ方を選ぶ問題においても、選択問題だが、全国・大阪府平均より大きく下回っている。

質問調査より

昨年度の集団と比較すると、自尊感情にやや低さは見られるが、将来の夢をもっている児童は多い。「自分にはよいところがあるか」との問いでは全国平均と同等、「人の役に立つ人間になりたいか」の問いには95%以上が肯定的に回答している。また、地域に対する愛情が深く、地域や社会を更によくしていきたいとの思いも持っている。

ICTの活用においては、平均を大きく上回って活用しているが、それらを使ってプレゼンをまとめたり、自分のペースで楽しく学習したりするツールとして活用することには至っていない。

## 今後の取組(アクションプラン)

道徳科の学習を要に道徳教育を推進し、児童の自己有用感を大切にしていきたい。地域への愛着はこれまでの取り組みの成果もあり、依然高く保っているので、地域全体のウェルビーイングをゴールに見据え、全ての教科領域の学習に取り組んでいきたい。

国語科においては、低位層の学力の底上げと苦手な内容に直接アプローチする必要性を感じている。特に「話すこと・聞くこと」「書くこと」においては、授業以外の場面でも取り組む時間を設け、自分の好きなことを話したり書いたりすることから始めていく。

算数科においては、基礎的な演算は定着しているので、それらを応用した問題に数多く取り組むことと、記述式問題への問題の理解を深める取り組みが必要である。

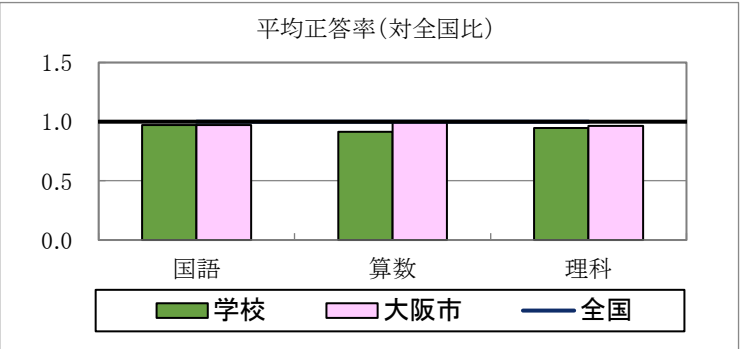
理科では観察・実験に時間がかかってしまうが、科学的に考察すること、結論の導出を急いで浅いものにしてしまわないことが重要だと考えられる。

どの学習においても協働的な学習を重視し、深い学びへ向かうことが求められる。

【 全体の概要 】

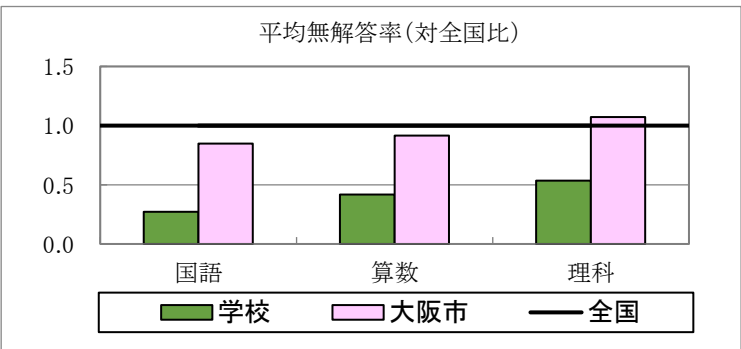
平均正答率（％）

	国語	算数	理科
学校	65	53	54
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1



平均無解答率（％）

	国語	算数	理科
学校	0.9	1.5	1.5
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

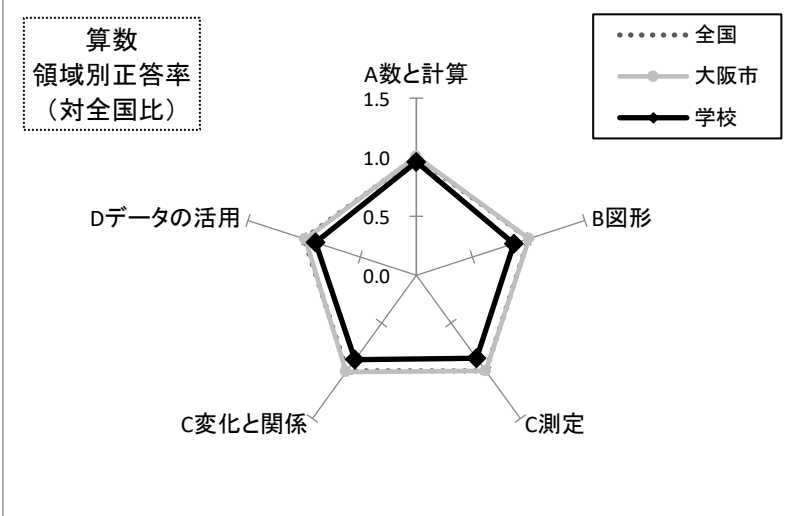
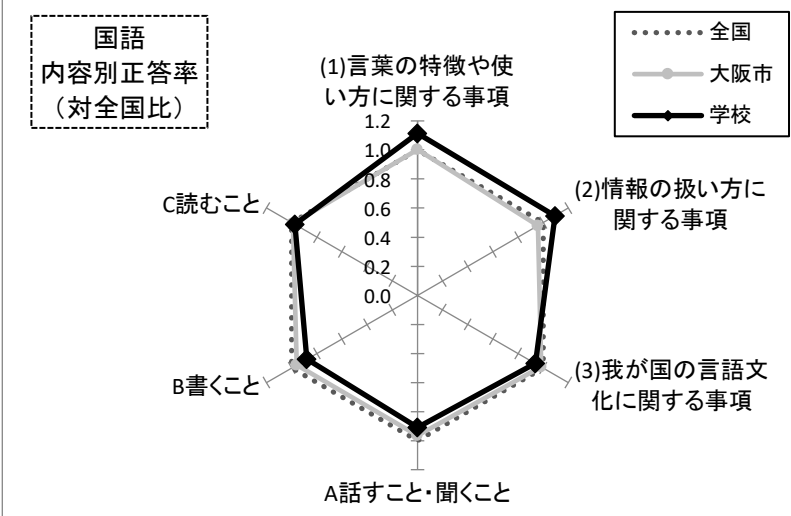
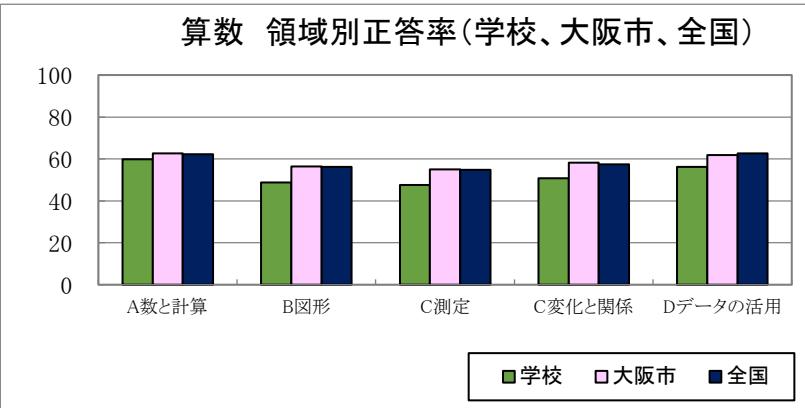
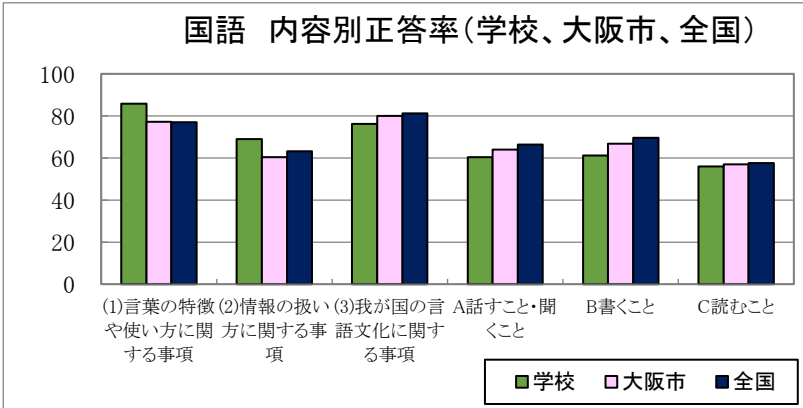


【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	85.7	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	69.0	60.4	63.1
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	76.2	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	60.3	64.0	66.3
B 書くこと	3	61.1	66.7	69.5
C 読むこと	4	56.0	56.9	57.5

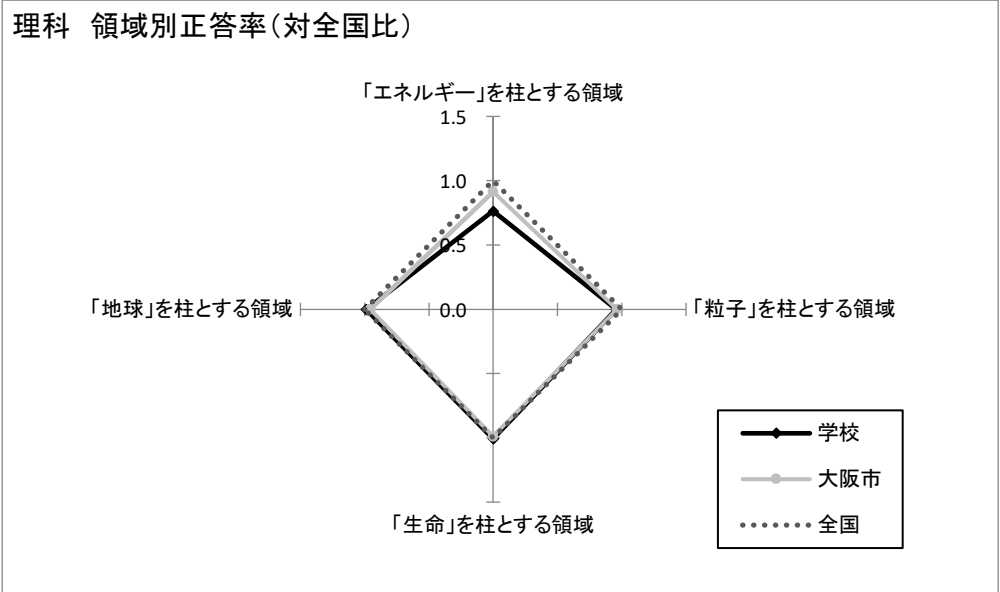
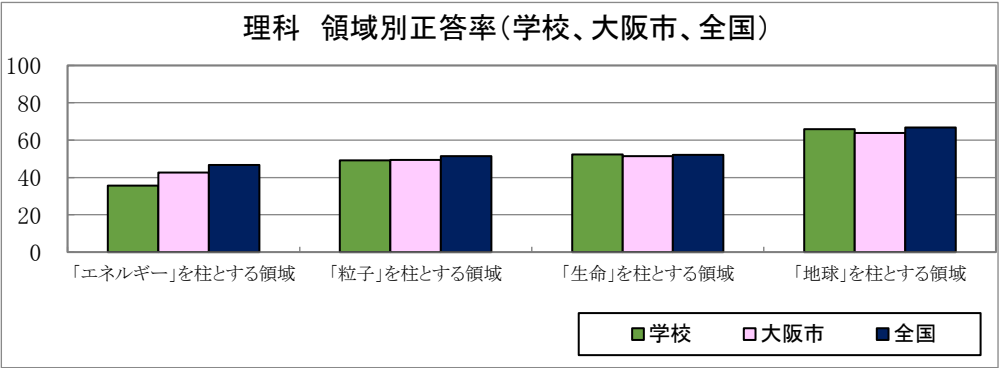
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	59.8	62.7	62.3
B 図形	4	48.8	56.4	56.2
C 測定	2	47.6	54.9	54.8
C 変化と関係	3	50.8	58.2	57.5
D データの活用	5	56.2	61.9	62.6



【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	35.7	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	49.2	49.5	51.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	52.4	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	65.9	63.8	66.7



児童質問より

質問番号
質問事項

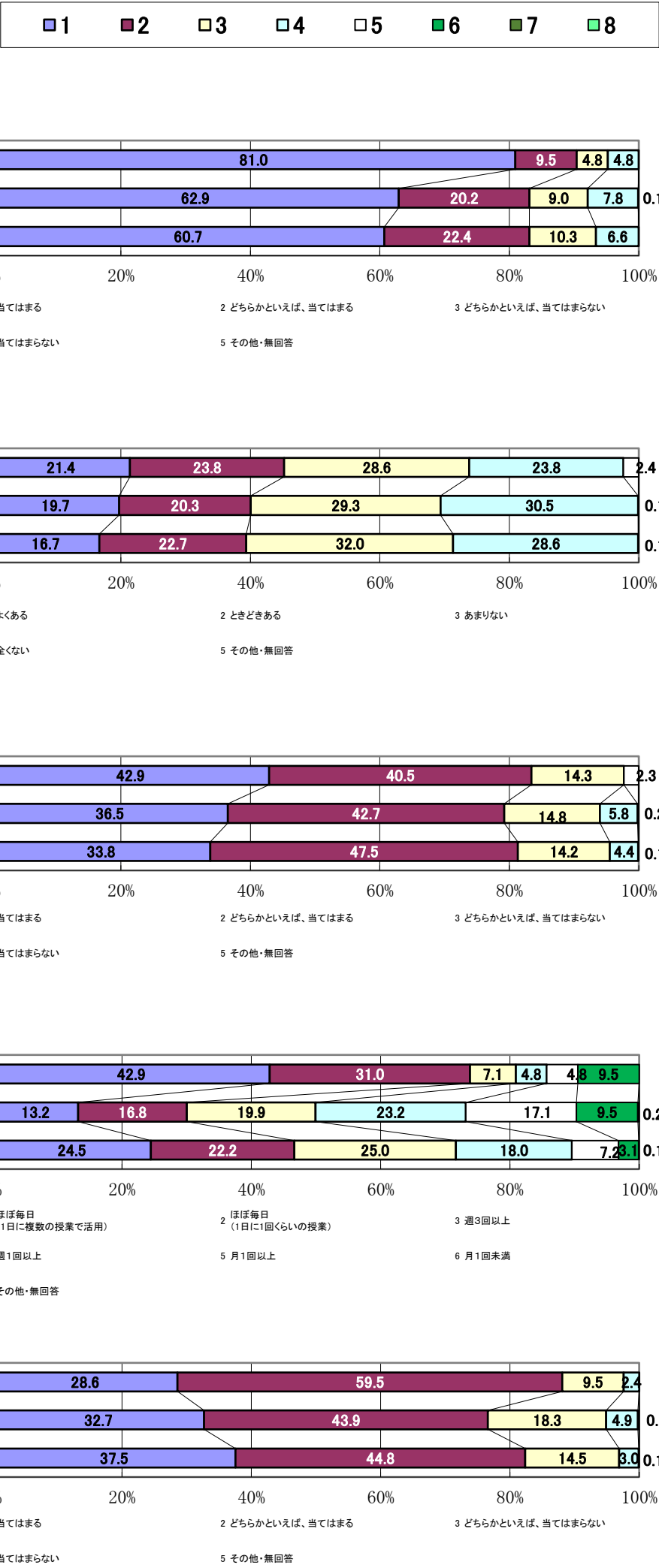
7
将来の夢や目標を持っていますか

26
地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか(習い事は除く)

27
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか

28
5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

40
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか

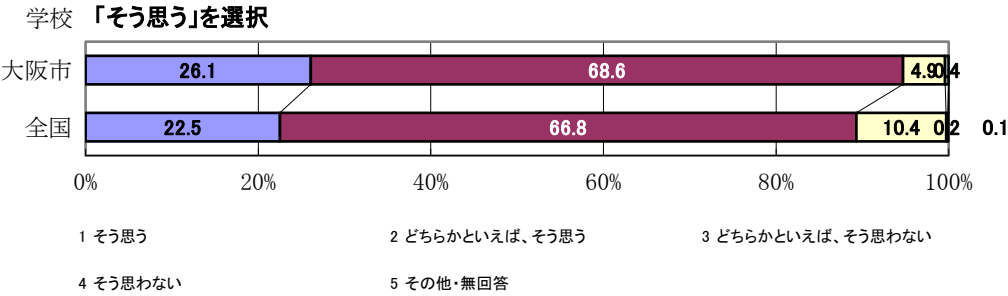


学校質問より

質問番号  
質問事項

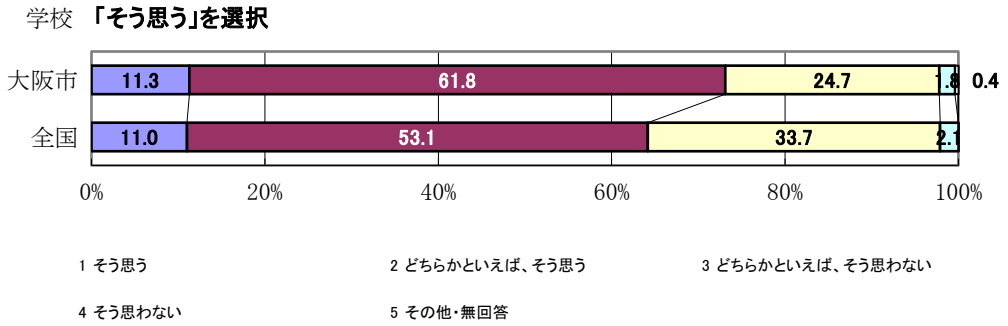
25

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。



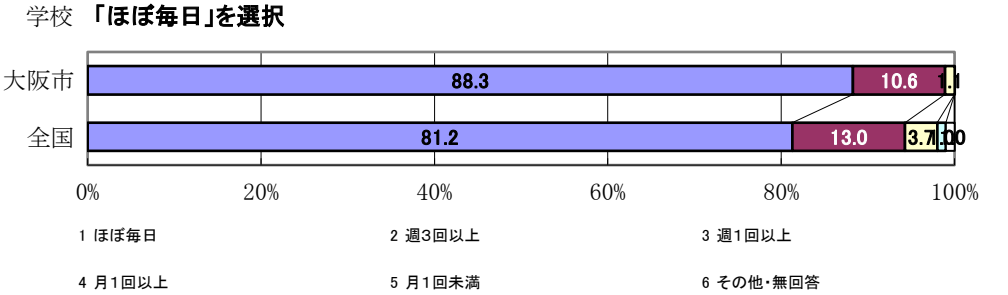
29

調査対象学年の児童は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか



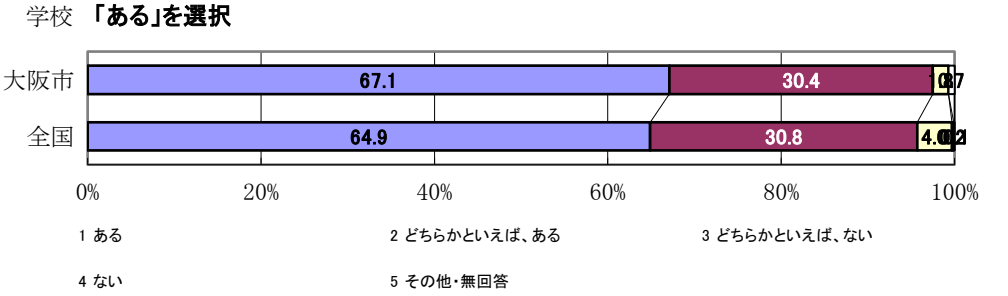
55

前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか



56

教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか



65

教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で、コンピュータなどのICT機器をどの程度活用していますか

